



他職種連携による介護予防と買い物支援の居場所

# ごましお健康くらぶ事業

(五町田・久間・塩田・大草野)



嬉野市生活支援コーディネーター  
(地域支え合い推進員)

溝口 道昭



# 嬉野市のご紹介

## 地形の特徴

ほぼ全域が山に囲まれ、中央に塩田川が流れている。盆地と中山間地に人が暮らしている。

## 主な産業と特産品

- 農業・・・嬉野茶
- 観光業・・・嬉野温泉(日本三大美肌の湯)
- 窯業・・・吉田焼
- 酒造業・・・東長、東一、虎の児



# 嬉野市の状況

人口	26,057名 ※令和1年6月	毎年300名前後が減少
65歳以上	8,745名 ※令和1年6月 (内4,593名が後期高齢者)	高齢化率33.6%
認定率	17.4% ※令和1年6月	65歳以上の5人に1人

## 【生活支援コーディネーターの配置について】

- ◆1層SC(嬉野市) ……社会福祉法人に委託
- ◆2層SC(塩田地区)……社会福祉協議会に委託
- ◆2層SC(嬉野地区)……社会福祉協議会に委託
- ◆2層SC(吉田地区)……NPO法人に委託

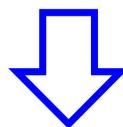
※各SCは、それぞれ勤務地が違うので、毎月1回～2回の連絡会をやっています。



# アセスメントから明らかになった嬉野市の現状と課題

## 【嬉野市における現状の課題】

- **独居高齢者の急増**・・・9世帯に1世帯、要支援者のうち28%
- **郊外での買い物場所の消滅**・・・7割の行政区に買い物場所なし
- **移動に関する課題**・・・公共交通空白地帯（特に塩田町に多い）
  - ・・・免許証返納者の増加（平成24年からの累計で370名超）
  - ・・・公共交通の担い手不足（バス・タクシー乗務員の高齢化）



**特に塩田地区の生活支援が脆弱・・・**

**「買い物支援」と「介護予防」が一緒にできないかな・・・**

## 「ごましお健康くらぶ」とは

「ごましお健康くらぶ」は嬉野市塩田町をモデル地区に定めた、有償ボランティアによる住民サポートを核として始まった介護予防と買い物支援の場です。

### 「名称の由来」

塩田町は、大正時代の頃、五町田村、久間村、塩田村の3つの村が合併して誕生しました。

かつて、それぞれの地区の頭文字を取った「**ごましお**」という愛称が塩田町を示す言葉としてよく使われていました。

特に、年配の方には「ごましお」という愛称に対しての馴染みが深く、また、通いを通し、自助力を高める観点から「**ごましお健康くらぶ**」という事業名に決定しました。

# 介護予防と買い物支援事業 「ごましお健康くらぶ」概要

事業スタート	令和元年5月7日
事業内容	塩田地区を移動支援の為の送迎車輛が走り、市民ボランティアのサポートを受け介護予防の100歳体操と買い物支援を受けることができる。 〈移動支援団体〉：社会福祉法人 済昭園 〈ボランティア団体〉：ごましお結びの会(会員14名)
総合事業での位置づけ	社会福祉法人による移動支援：訪問型サービスD ボランティア団体による居場所の運営：通所型サービスB
利用対象者	市内在住の65歳以上の高齢者であり、以下のいずれかに該当する方 (要支援者・総合事業対象者・日常的な買い物に困っている方)
開催日時	毎週火曜日 9時～12時30分(送迎時間を含む)
1回の利用定員	15名(今後30名まで増員予定)
1回の利用料金	200円(ボランティア団体が現金で徴収)

## 利用日の流れ

### 【利用時間と内容】

時間	内容
9時～10時	自宅から会場までの送迎 ※ 送迎はマイクロバスで行けるところまで
10時～11時	100歳体操、認知症予防のレクなどの介護予防活動
11時～11時30分	買い物
11時30分～12時30分	会場から自宅までの送迎 ※ 送迎はマイクロバスで行けるところまで

※ 送迎時の乗降、買い物の際はボランティアからのサポートがあります。

# 介護予防と買い物支援事業 「ごましお健康くらぶ」(塩田地区)

社会文化会館  
リバティ

ショッピングセンター  
ぷらっと

移動  
支援

介護予  
防体操

買い物  
支援



# 【ごましお健康くらぶ 各機関・団体の役割】

## 居場所運営

### ごましお結びの会

- ・利用者受け入れ
- ・場所の管理
- ・連絡調整
- ・ボランティアの手配調整
- ・ボランティアの取りまとめ
- ・報告書(日報)の提出

## 協力医療機関

### 光武医院

- ・緊急時の対応

## 受付

### 地域包括支援センター(ケアマネ)

- ・新規利用相談受付
- ・介護予防計画(私のプラン)の作成
- ・利用誓約書の取り付け
- ・緊急時の連絡
- ・利用者に関する事(状態変化や気づき)
- ・利用者を他の高齢者サービスに繋ぐ場合の調整
- ・報告書(日報)の提出受付

## 全体の調整

### 第2層生活支援 コーディネーター

- ・平常時の利用者からの欠席や中止の連絡受付
- ・ボランティア会員に関する連絡・報告
- ・ボランティアの加入・脱退の相談
- ・事業全般に関する相談
- ・ボランティア保険に関する事
- ・定例会に関する事
- ・広報支援
- ・専門職の派遣など

## 移動の支援

### 社会福祉法人 済昭園

- ・運転手の提供
- ・車輛の提供
- ・車輛の運行

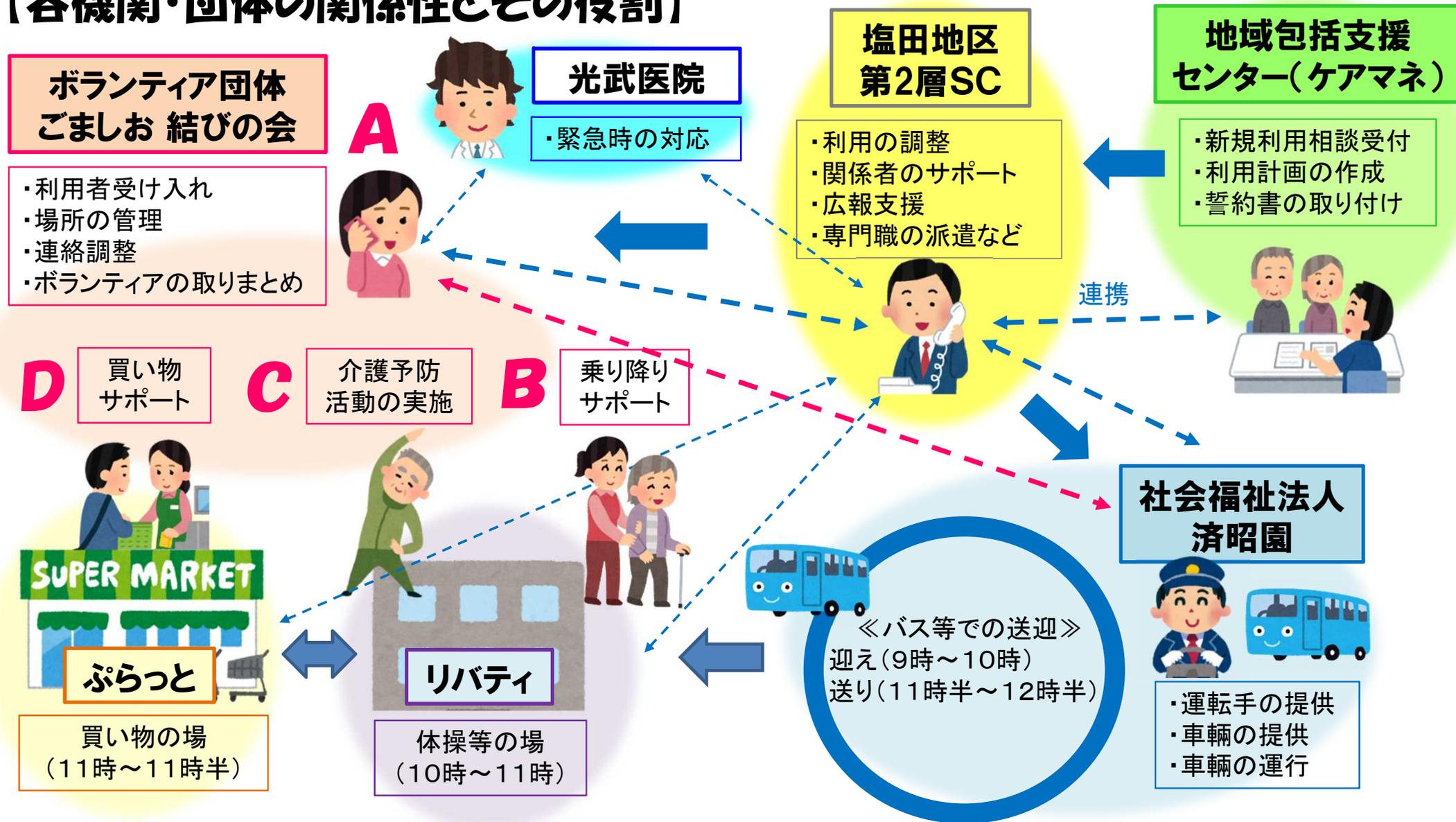
### 市役所

## 事業全般

### 嬉野市 福祉課

- ・事業全般に関する事
- ・補助金(報告・請求事務)に関する事
- ・賠償責任に関する事

# 【各機関・団体の関係性とその役割】



# 移動支援団体

## 移動支援団体について

社会福祉法人も地域貢献の在り方を模索しており、移動支援については、すんなり協力の承諾を頂けた。

また、実際に試験運転の中で、定員15名の枠が直ぐに埋まったことを受け、マイクロバス1台体制ではニーズに応えきれないことが判明。直ぐに、他の社会福祉法人にも協力をお願いに行った。今年度中には、定員を増やす方向性で考えている。

★社会福祉法人済昭園(児童及び高齢者施設)が協力

★社会福祉法人〇〇会(障がい者施設)が協力について内諾



2名の運転手さん  
&  
マイクロバスを一台 提供

# ごましお結びの会

## ごましお結びの会

ごましお結びの会の名称は、五町田、久間、塩田、大草野を結び会という意味が込められている。

住民ボランティアの募集に応じられた市役所のOBの方々を中心に、14名で結成！！

### ごましお結びの会規約・・・目的の部分

本会は、少子高齢化が急速に進む中であって、安心して暮らせる地域共生社会の実現に向けた活動を模索するとともに、高齢者等の介護予防や日常生活の支援に関する活動（事業）を行うことにより、嬉野市内の高齢者等が住み慣れた地域で元気に住み続けられ、あらゆる世代を超えて住民同士で交流し、支え合う住みやすい地域づくりを行っていくことを目的とする。

# ごましお健康くらぶ開所までの歩み(一部のみ掲載)

平成 28年度	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ <b>4月 生活支援体制整備事業はじまる</b>。溝口が第1層SCへ任命される。</li><li>➤ 4月～うれしのよかまちづくり研究会を発足する。</li><li>➤ 5月～SCとしてすることも分からず、とりあえず地域アセスメントを開始する。 行政区への訪問、公共交通機関での聴き取りなどを行う。このアセスメントを通して、市内での人脈ができたことも非常に大きな収穫で、その後のSCとしての活動に大きく影響した。 ⇒ <u>この時点で既に買い物支援体制の構築の必要性を感じる。</u></li><li>➤ <b>9月</b> 4月～9月までの研究会(全9回開催)を経て<b>嬉野市第1層協議体立ち上げる</b>。 以降、嬉野市第1層協議体は毎月1回の開催を行っている。</li></ul>
平成 29年度	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ <b>4月 第2層生活支援コーディネーター配置</b>される(塩田・嬉野・吉田の3地区に1名ずつ)。</li><li>➤ 6月 吉田地区で協議体立ち上げを想定した住民勉強会を開始(7月、12月、2月)</li><li>➤ 8月 市民参加のお祭り型のフォーラムを開催し1000名の市民を集める。</li><li>➤ 9月 嬉野市生活支援コーディネーター連絡会を開始する(以後、毎月開催)。</li><li>➤ <b>3月</b> これまでの様々なアセスメント結果を踏まえて<b>平成30年度の活動の重点項目を打ち出す</b>。 ⇒ 「居場所づくり」、「買い物支援体制の構築」、「暮らしの保健室の整備」</li></ul>

# ごましお健康くらぶ開所までの歩み(一部のみ掲載)

平成 30年度	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ <b>4月</b> 市内に在る<b>買い物場所22店舗への訪問調査</b>(スーパー、コンビニ、物産館など) ⇒ あるスーパーから「うちでせんね」の声をいただく。早速、事業の構想を始める。 当初はスーパーの一角を活用した居場所づくりを模索していた。</li><li>➤ 5月～居場所の運営団体を探し始める。 ⇒ 各種団体などへの訪問を行うなかで、ある団体から好反応を得る。 その後、11月まで交渉を続けるが、後に破局・・・</li><li>➤ 7月 モデルとなった山口県防府市の「幸せます健康くらぶ」を視察し、より具体的なイメージを描けるようになる。</li><li>➤ 8月～9月 利用ニーズ調査・・・要支援者78名へ訪問聴き取りを行い、6割が利用希望される。</li><li>➤ <b>10月 社会福祉法人済昭園より移動支援についての内諾を得る。</b></li><li>➤ 11月～12月 居場所の運営について交渉していた団体と交渉決裂・・・ないならば、つくればいいということで、ボランティア募集開始からのボランティア団体の立ち上げを行う。</li><li>➤ 2月 ボランティアへの勉強会実施する。関係者間の打ち合わせを密に行う。</li><li>➤ <b>3月 ごましお健康くらぶ試験運転開始(塩田地区)</b></li><li>➤ 3月 利用希望者が多く、定員いっぱいになる。週2回の開催を見据え市内の他の社会福祉法人に移動支援についての話を行い、内諾を得る。</li></ul>
令和 元年度	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ <b>5月</b> 合計5回の試験運転を経て、<b>5月7日、正式に「ごましお健康くらぶ」事業開始</b>となる。</li></ul>